

検査部

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(2 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	20 人	
その他（技術補佐員等）	22 人	
合計	44 人	

2 教員の異動状況

飯野和美（助教）（H17.4.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）

藤澤朋幸（助教）（H22.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	9 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	28.19	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Fujisawa T, Chang MM, Velichko S, Thai P, Hung LY, Huang F, Phuong N, Chen Y, Wu R : NF- B mediates IL-1 - and IL-17A-induced MUC5B expression in airway epithelial cells. Am J Respir Cell Mol Biol. 45(2):246-252, 2011.
2. Hamada E, Taniguchi T, Baba S, Maekawa M : Investigation of unexpected serum CA19-9 elevation in Lewis-negative cancer patients. Ann Clin Biochem, 49(Pt3) , 266-272, 2012.

インパクトファクターの小計 [6.635]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Yogo K, Oki Y, Iino K, Yamashita M, Shibata S, Hayashi C, Sasaki S, Suenaga T, Nakahara D, Nakamura H. Neuropeptide W stimulates adrenocorticotrophic hormone release via corticotrophin-releasing factor but not via arginine vasopressin. Endocr J. 2012 in press.
2. Suzuki Y, Suda T, Furuhashi K, Shibata K, Hashimoto D, Enomto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Nakamura H, Chida K: Mouse CD11b^{high} lung dendritic cells have more potent capability to induce IgA than CD103⁺ lung dendritic cells in vitro. Am J Respir Cell Mol Biol. 2012. in press
3. Yasui H, Fujisawa T, Inui N, Kato M, Hashimoto D, Enomoto N, Nakamura Y, Shirai T, Suda T, Nakamura H, Chida K: Impact of add-on pranlukast in stable asthma; the additive effect on peripheral airway inflammation. Respir Med. 106(4):508-514, 2012.
4. Furuhashi K, Suda T, Hasegawa H, Suzuki Y, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Shibata K, Nakamura H, Chida K: Mouse Lung CD103⁺ and CD11b^{high} dendritic cells preferentially induce distinct CD4⁺ T cell responses. Am J Respir Cell Mol Biol. 46(2):165-172. 2012.
5. Suzuki Y, Suda T, Yokomura K, Suzuki M, Fujie M, Furuhashi K, Hahimoto D, Enomto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Nakano Y, Nakamura H, Chida K: Serum activity of indoleamine 2,3-dioxygenase predicts prognosis of community-acquired pneumonia. J Infect. 63(3):215-222, 2011.
6. 古橋一樹, 藤澤朋幸, 早川啓史, 横村光司, 豊嶋幹生, 安田和雅, 菅沼秀基, 白井敏博, 山田孝, 増田昌文, 千田金吾: 外来市中肺炎治療における炎症性マーカーについて. 日本呼吸器学会雑誌 1号5巻, 2012 (in press)

インパクトファクターの小計 [17.134]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Lee YC, Oslund KL, Thai P, Velichko S, Fujisawa T, Duong T, Denison MS, Wu R: 2,3,7,8-Tetrachlorodibenzo-p-dioxin-induced MUC5AC expression: aryl hydrocarbon receptor-independent/EGFR/ERK/p38-dependent SP1-based transcription. Am J Respir Cell Mol Biol. 45(2): 270-276, 2011.

インパクトファクターの小計 [4.426]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 飯野和美、沖隆. POMC プロセッシング異常を伴うクッシング病 ACTH RELATED PEPTIDES 22, 27-29, 2012

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 藤澤朋幸, 榎本紀之, 千田金吾; 膠原病に合併する間質性肺炎. 特発性間質性肺炎-最近の進歩と展望- 最新医学社, 第 66 巻/第 6 号 特集 1188-1195, 2011
2. 藤澤朋幸: 気道過敏性試験、6 分間歩行試験、血液培養検査、遺伝子検査. 林秀晴、千田金吾 (編) 必携 内科検査・手技マニュアル —この一冊ですべてがわかる-, 南江堂, 2011

4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	3 件	(390 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 飯野和美、(代表者) 基盤研究 (C)
がん転移モデルとしての悪性褐色細胞腫の解析
H23 ~ 25, 190 万円
2. 藤澤朋幸、(代表者) 若手研究(B)
気管支喘息発作時における気道粘液過剰産生増悪メカニズムの解明とその抑制法の開発
H23 ~ 25, 110 万円
3. 石川仁子、(代表者) 若手研究(B)
癌の体細胞変異の高感度検出法(AL-COLD-PCR-SSCP)の開発と臨床応用
H22 ~ 24, 90 万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件

(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	2 件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Maekawa M, Taniguchi T, Ishikawa J: Efficiency of COLD-PCR and High Resolution Melting for detecting K-ras mutation. American Association for Clinical Chemistry, 2011/ 7/ 26, Atlanta, USA
2. Hamada E, Fujiwara A, Maekawa M : Study for basic performance of automated glucose analyzer GA09 model. American Association for Clinical Chemistry, 2011/ 7/ 27, Atlanta, USA

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

1. 飯野和美、沖隆

臨床シンポジウム- 非定型クッシング症候群 - POMC プロセッシング異常を伴うクッシング病
第 22 回間脳下垂体副腎系研究会 2011/ 9/ 3 東京

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 飯野和美 日本内分泌学会 評議員
2. 濱田悦子 日本臨床検査医学会 評議員
3. 濱田悦子 日本臨床化学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	0 件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 原発性アルドステロン症患者と本態性高血圧患者における動脈硬化について頸動脈エコーで評価し比較検討する臨床研究について現在論文作成中である。同程度の血圧であった場合、原発性アルドステロン症患者により動脈硬化性疾患の発症が多いことから、血圧を介した病態以外のアルドステロンの直接作用の存在が考えられている。疾患治療前後 12 か月で頸動脈 IMT の値の改善が得られるかについても約 100 例の本疾患患者について検討しているが、これらのデータはこれまで報告がない。

(飯野和美)

2. 過去に採取された褐色細胞腫手術検体を用いた検討で、悪性褐色細胞腫の転移形態の解明、転移プロセスとその周辺に関与因子について分析する実験を行っている。今後①腫瘍の悪性化に伴うメチレーション解析、および ②摘出腫瘍のタンパク発現量の面からみたプロテオーム解析を計画している。

(飯野和美)

3. 気管支喘息発作時における気道粘液過剰産生増悪メカニズムの解明とその抑制法の開発
気管支喘息発作時において、粘液過剰産生増悪は気道閉塞の一因となるためその機序の解明は臨床的に極めて重要である。喘息発作時における粘液過剰産生機序の解明を目的とし、Air liquid interface (ALI) にて培養したヒト気管上皮細胞へ、NF- κ B を活性化する前炎症性サイトカイン (IL-1, IL-17, TNF- α) や TLR ligands (LPS, LTA, poly I:C, flagelin) と STAT6 を活性化する Th2 サイトカイン (IL-4, IL-13) を、単独にあるいはそれらを組み合わせた共添加 (IL-1 + IL-13, IL-17A + IL-4, TLR ligand + IL-13 など) を行い、刺激因子添加による MUC5AC, MUC5B mRNA 発現誘導を RT real-time PCR を用いて検討した。単独刺激において、IL-1, IL-17 添加により MUC5AC, MUC5B が誘導されることを確認した。共刺激に関しては、IL-1 または IL-17 と poly I:C の共刺激 (IL-1 + poly I:C, IL-17 + poly I:C) により、相加的な MUC5AC 誘導が確認された。現在、刺激因子の組み合わせや刺激のタイミング、タイムコースなどをより詳細に検討し、相加相乗的に MUC5AC, MUC5B を誘導する刺激条件の同定を進めている。

(藤澤朋幸、前川真人)